文化財通信くまもと

第７号
1993.4
熊本県教育委員会

うてな遺跡の遠景（南西上空より）

この写真は、菊池郡七城町辺田の上空よりとった航空写真です。写真のほぼ中央に、うてな台地の平らな面があり、東西方向にのびています。この台地は、菊池川の支流である内田川・木野川と迫間川とにはさまれていて、標高が約70m～80mあります。

うてな遺跡はこの台地の西側の端にあり、遺跡からはまわりを良く見ることができます。今回調査したのは、遺跡の中央より南側によったところです。写真には、弥生時代後期の環濠と古墳時代前期の方形周溝墓が見えます。ここより北側にある、排水路を作る前の調査で、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居址（約80軒）と環濠（７本）などが見つかりました。今回見つかった環濠と前回の調査で出てきた竪穴住居址・環濠は関連があります（Ｐ２参照）。

うてな遺跡

所 在 地	菊池郡七城町大字台（うてな）
調査面積	約7,000㎡

うてな遺跡の今回の調査は県道を改良する工事にともなうものです。調査したところは、その道路幅なので細長くなっています。

縄文時代の調査

縄文時代の後期の土器が出てきました。しかし、家のあとなどは見つかりませんでした。

弥生時代の調査

２本の溝あとが見つかりました。今回調査したところより北側に、家のあと（竪穴住居址）が見つかっています。２本の溝は、この家があるところの外側（集落の南側）にあります（環濠）。溝の中からは、弥生時代終わり頃の土器がたくさん出てきました。これらの土器はつぶれた状態やわれた状態で見つかりました。出てきた土器をつなぐと、かめ・壺・鉢（深い皿）などの形になります。

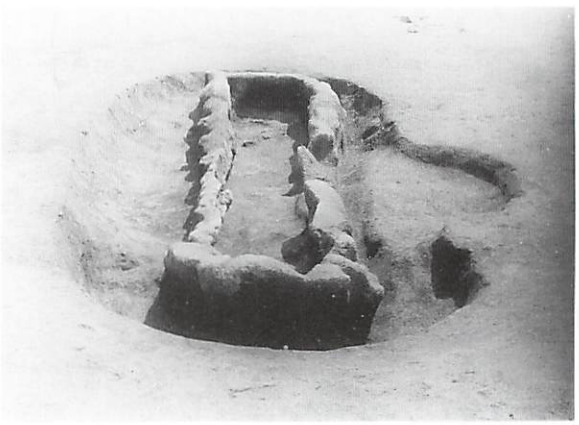
土器のほかに、石でつくった道具（石器・石製品）が少し出てきました。特にめずらしいものは、火山の噴火でできたやわらかい石（凝灰岩）のこしかけです。

古墳時代の調査

四角に溝をめぐらした墓のあと（方形周溝墓）３基、木で作った棺のあと（木棺）４基、壺を使った棺

溝跡の遺物出土状況

凝灰岩のこしかけ



木　棺

（壺棺）１基が見つかりました。これらは台地西側の端にまとまっています。方形周溝墓は、溝の中から出てきた土器から、古墳時代の前期のものと考えられます。木棺は木のまわりをねんどでおおっています。１号・４号・５号木棺の中からは、ガラスの玉がたくさん見つかりました。ガラスの玉は首かざりや腕輪にしたものです。木棺・壺棺も方形周溝墓と同じ頃のものと思われます。

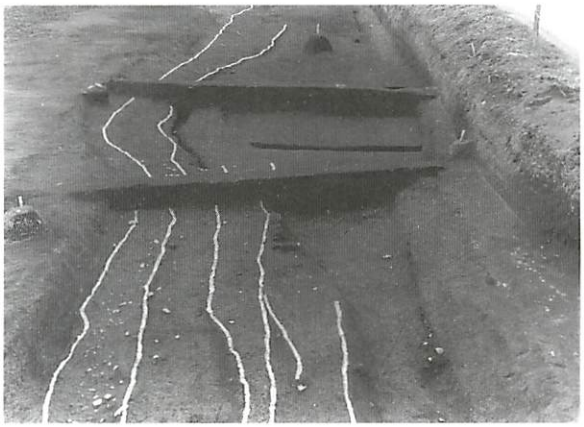
平安時代の調査

地面を四角にほって、その上に屋根を作った家のあと（竪穴住居址）46軒、地面に柱を建てた家のあと（掘立柱建物跡）５棟が見つかりました。ほかに、道のあと１本、溝のあと３本、地面をほった墓のあと（土壙墓）２基が出てきました。竪穴住居址には、かべに接してかまどがあります。かまどの中には灰や焼けた土が入っていました。竪穴住居址は２～７棟が重なって見つかりました。道のあとは、くぼんでいて、人が歩いた部分が硬くなっています。

鎌倉・室町時代の調査

掘立柱建物跡３棟・土壙墓２基・道路のあと10本・溝のあと２本が見つかりました。掘立柱建物跡のうち、２棟は同じ向きに、接して建っています（平行型二棟造）。10本の道路あとは上下に重なっていて、同じ方向にのびています。

掘立柱建物跡



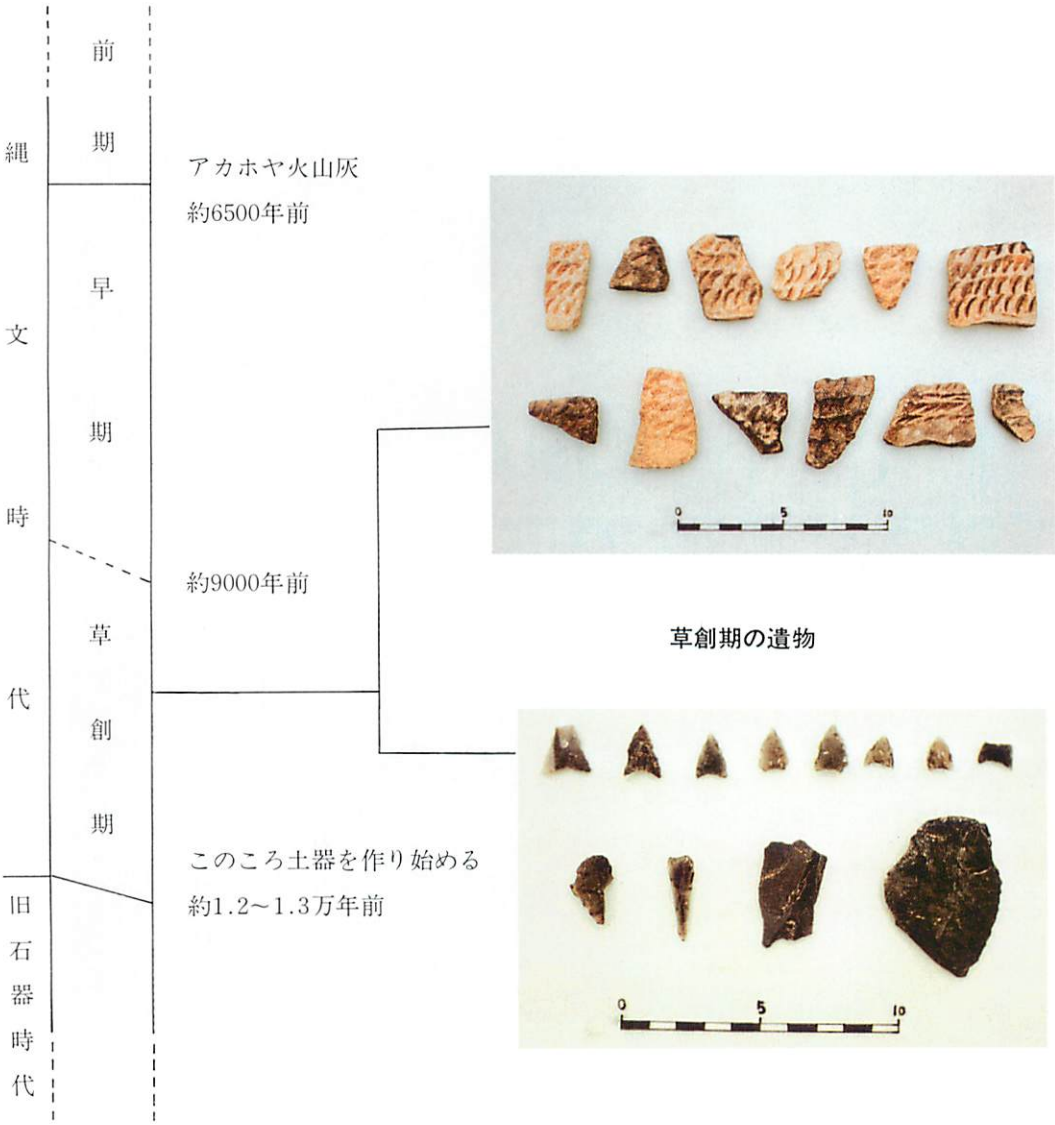
道　路　跡

道路の下に石を並べた状態

白鳥平B遺跡

所　在　地	熊本県人吉市赤池水無町
広　　さ	約10000㎡
立　　地	丘陵上　標高170～173m
遺跡の年代	先土器時代、縄文時代草創期、早期、近世（江戸時代）

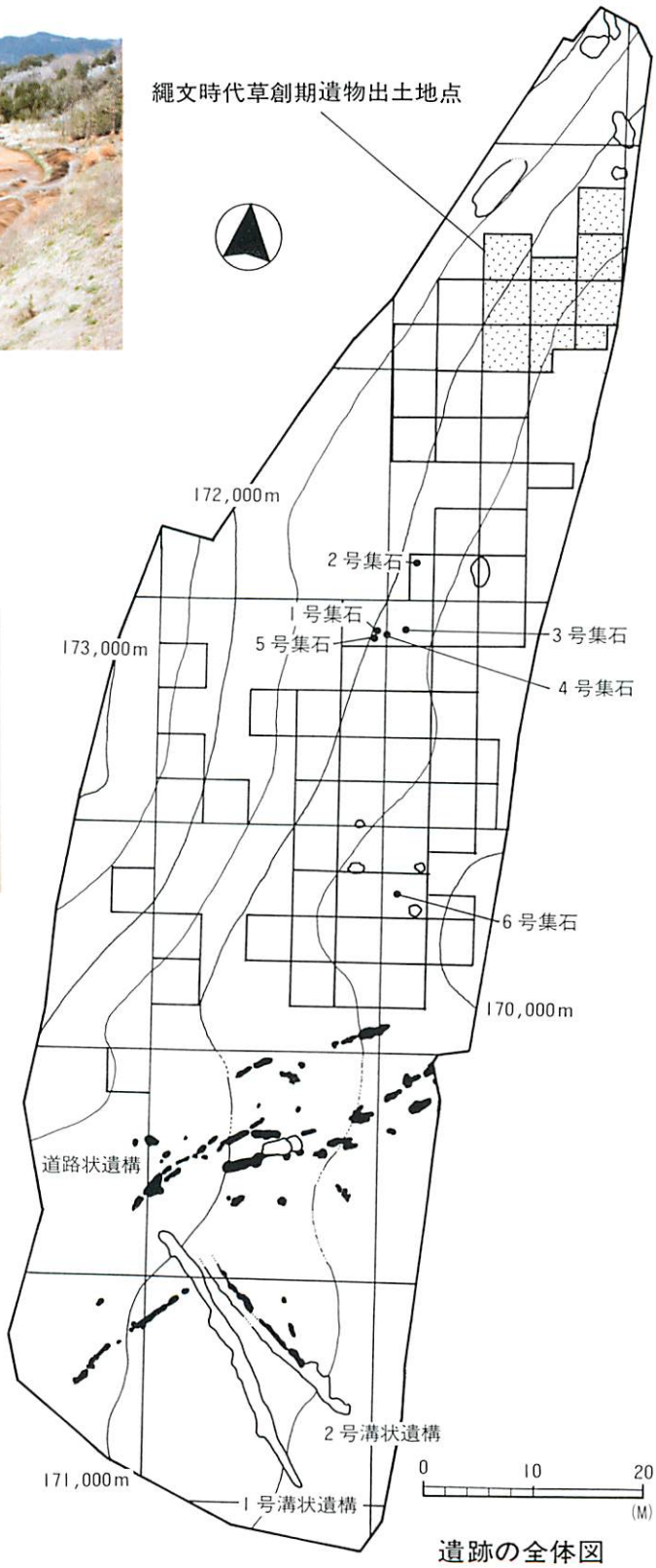
先土器（旧石器）時代の終わりごろ、少しづつ気候が暖かくなりまわりの動物、植物が変化しはじめたことから人類の生活の形が変化します。そのなかで大きな変化として「土器」という新しい道具を作り、使いはじめます。この時代を縄文時代草創期といいます。このように「土器」が作られるようになって、木ノ実や貝類などを煮たり炊いたりして食べることができるようになり、食生活が豊かになりました。白鳥平B遺跡では土器の表面に爪をおしあてて文様をつけた古い土器片が多数見つかりました。



遺跡の全景

先土器時代の遺物

先土器時代の遺物



遺跡の全体図

迫の上遺跡

所　在　地	熊本市龍田町上竜田字迫の上
広　　さ	約5,000㎡
立　　地	丘陵上　標高約90ｍ
遺跡の年代	縄文時代

この遺跡からは、縄文時代の早期の土器が沢山見つかりました。木の棒に刻み目を付けて土器の表面を転がして文様を付けた、押型文土器が数多く見うけられます。その他、石を打ち欠いて作った石斧（打製石斧）ややじり（石鏃）が見つかりました。とくに黒曜石で作った石器もありますが、黒曜石の産地は近くにありません。

また、縄文人が住んでいた家の跡は見つかっていませんが、煮炊に使ったと思われる石組み（集石遺構）が見つかっていますので、この地に生活していた縄文人の様子を想像することができます。

遺跡の全景（南上空より）

Ⅱ区．調査区全景

Ⅳ区．縄文時代のやじり出土状況

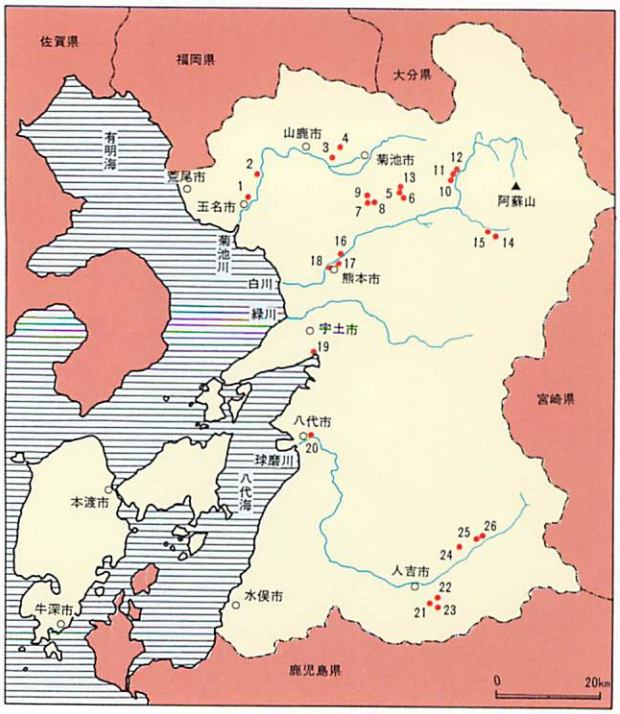
II区．押型文土器出土状況

II区．土師器出土状況

I区．集石出土状況

平成３年度に調査した遺跡

No.	遺跡名	所在地（立地）	事業名	調査期間	成果（時期）
1	大塚	玉名市立願寺（台）	国道	H3.4 ～H3.9	遺物散布地(縄－後)(奈、平)、周溝状遺構(古)
2	宮の前	玉名郡菊水町長小田（段）	ほ場		カメ棺、竪穴住居址、溝
3	うてな	菊池郡七城町（台）	県道	H2.11～H3.11	環濠(弥生－後)、方形周溝墓(古－前)、竪穴住居址(平)、道路跡・掘立柱建物跡(鎌・室)
4	鞠智城	菊池郡菊鹿町米原（台）	国庫・県		八角円堂、掘立柱建物跡、礎石建物(奈－平)
5	面の平	菊池郡旭志村（台）	畑総		竪穴住居址(弥生時代後期)
6	ワクド石	菊池郡大津町（台）	畑総		石組炉、遺物散布地(縄－後、晩)、竪穴住居址(縄、古)
7	出口	菊池郡合志町（台）	畑総		竪穴住居址(弥生－後)、遺物散布(縄－後、晩)
8	揚土	菊池郡合志町（台）	畑総		掘跡(中世)、竪穴住居址(奈良－平安)、掘立柱建物跡(奈良－平安)
9	峠	菊池郡合志町（台）	畑総		竪穴住居址(奈良－平安)、遺物散布(縄－後、晩)
10	狩尾湯ノ口	阿蘇郡阿蘇町字狩尾（微）	激甚復旧	H3.9 ～	集落(弥生－後)、V字溝、銅鏃、素環頭刀子、勾玉
11	狩尾方無田	阿蘇郡阿蘇町字狩尾（微）	激甚復旧	H3.12～	集落(弥生－後)
12	池田古園	阿蘇郡阿蘇町字狩尾（台）	激甚復旧	H3.12～	集落(弥生－後)
13	亀塚	菊池郡旭志村（台）	農道	H4.3 ～	
14	柏木谷	阿蘇郡久木野村字久石(丘)	ほ場		竪穴住居址(弥－後)、土壙墓、方形周溝墓、円墳(古)
15	原口	阿蘇郡久木野村字河除(丘)	ほ場		竪穴住居址(弥～古)
16	迫の上	熊本市龍田町上立田（丘）	国道	H3.11～	遺物散布地(縄－早、晩)
17	古城跡	熊本市古城町（台）	県立学校		掘立柱建物跡、地下倉(江、明)
18	熊本城	熊本市千葉城町（台）	美術館		柱穴、溝、石組
19	神の元１号墳	宇土郡不知火町高良（台）	農道	H3.3 ～H3.7	古墳時代後期の古墳
20	八代大塚古墳	八代市東片町（低）	道路	H4.1 ～	前方後円墳、周溝埴輪
21	白鳥平Ａ・Ｂ	人吉市赤池水無（丘）	自動車道		爪形文土器・集石(縄－草創期～早期)
22	人我胸	〃	〃		遺物散布地・集石(縄－早)
23	永谷	〃	〃		遺物散布地・集石(縄－早)
24	大原	球磨郡錦町木上（丘）	国営川辺	H3.7 ～H3.12	土坑・貯蔵穴・遺物散布地(縄－晩)
25	別府	球磨郡須恵村（丘）	畑総		遺物散布地(旧石器～平)
26	中尾	〃	〃		〃



（凡　例）

１．立地については、それぞれ台地、丘陵地、山地、段丘、河川の頭文字をつけた。
２．成果の時期は、次のように記す。

先土器時代――――――先　　奈良時代―奈
縄文時代　早期～晩期――　　平安時代―平
　縄―早、前、中、後、晩　　中　　世―中
弥生時代　前期～後期――　　近　　世―近
　弥―前、中、後
古墳時代――――――古

〈編集後記〉

今回は、平成３年度に実施した調査第２係の調査成果をお知らせしました。これからも、より身近な文化財を目指して発行を重ねたいと思います。みなさんからの御意見・御感想をお待ちしています。

第　７　号
平成５年３月31日発行
発行　熊本県教育庁文化課
熊本市水前寺６丁目18-1
電話　096-383-1111番
内6715・6716
印刷　コロニー印刷

04　教委　教文
③　００４